

桜島は昔から大噴火をくり返しています

記録に残っている大噴火

通常の噴火 山頂火口から噴火し、火山灰や噴石をふき出す。

大噴火 山の途中に複数の火口を作って大量の軽石や火山灰をふき出し、最後には溶岩が流れ出る。

奈良時代
天平宝字噴火
(764年)

東側から軽石と火山灰がふき出し、溶岩が流れ出ました。

室町時代
文明噴火
(1471年)

北東側と南西側から軽石と火山灰がふき出し、溶岩が流れ出ました。

江戸時代
安永噴火
(1779年)

北東側と南側から軽石と火山灰がふき出し、溶岩が流れ出ました。
海底噴火により津波がおきました。

大正時代
大正噴火
(1914年)

西側と東側から軽石と火山灰がふき出し、溶岩が流れ出て、大隅半島と陸続きになりました。



噴火で流れ出た溶岩

流れ出た溶岩で
桜島は広がっています

どんなことが
起こったのか
次のページから
マンガで見て
みましょう。



大正噴火は、
国内では
20世紀最大の
噴火と言われて
います。